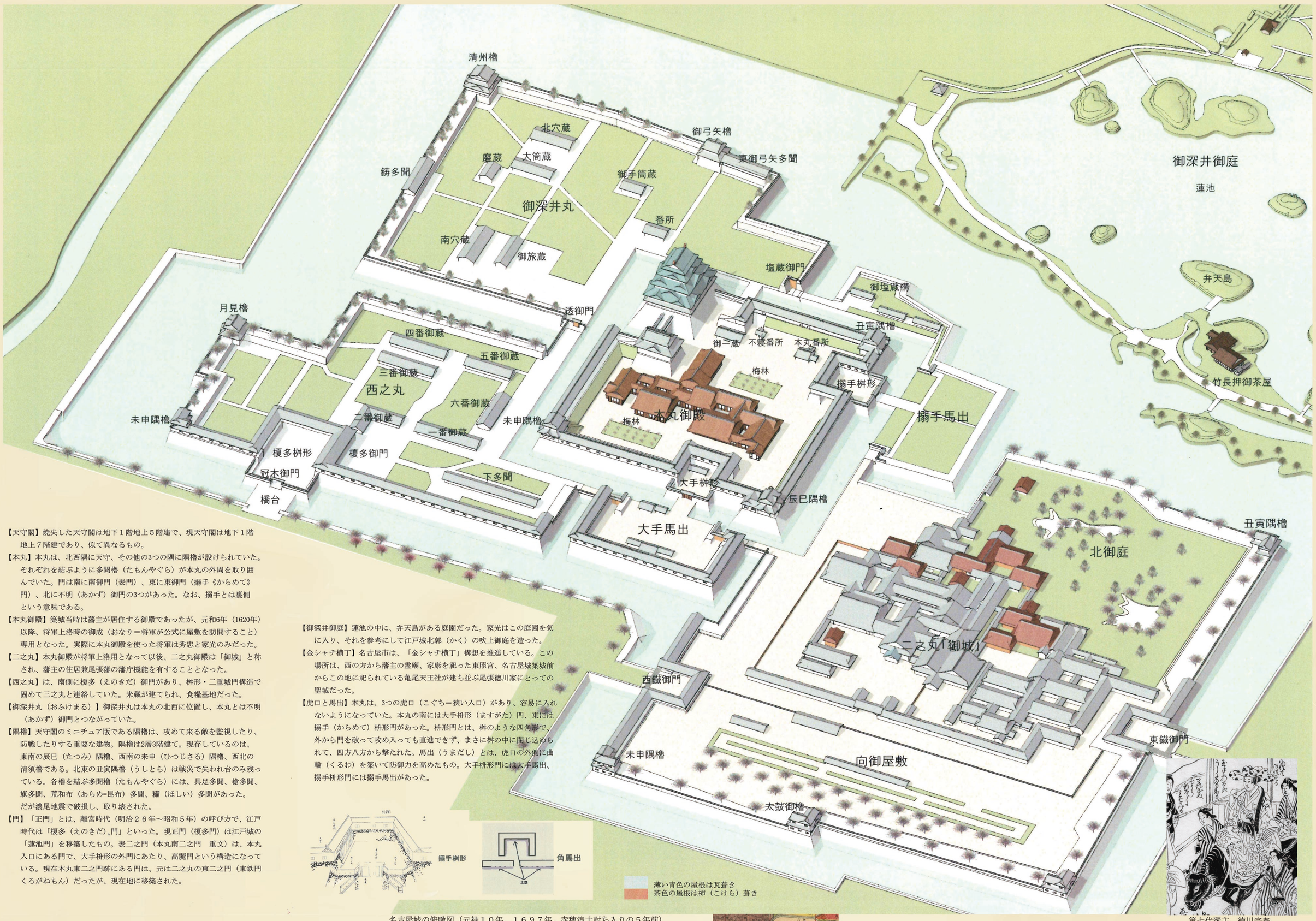
本物の名古屋城を世界遺産にしよう！



【天守閣】焼失した天守閣は地下１階地上５階建で、現天守閣は地下１階地上７階建であり、似て異なるもの。

【本丸】本丸は、北西隅に天守、その他の3つの隅に隅櫓が設けられていた。それぞれを結ぶように多聞櫓（たもんやぐら）が本丸の外周を取り囲んでいた。門は南に南御門（表門）、東に東御門（搦手《からめて》門）、北に不明（あかず）御門の3つがあった。なお、搦手とは裏側という意味である。

【本丸御殿】築城当時は藩主が居住する御殿であったが、元和6年（1620年）以降、将軍上洛時の御成（おなり＝将軍が公式に屋敷を訪問すること）専用となった。実際に本丸御殿を使った将軍は秀忠と家光のみだった。

【二之丸】本丸御殿が将軍上洛用となって以後、二之丸御殿は「御城」と称され、藩主の住居兼尾張藩の藩庁機能を有することとなった。

【西之丸】は、南側に榎多（えのきだ）御門があり、桝形・二重城門構造で固めて三之丸と連絡していた。米蔵が建てられ、食糧基地だった。

【御深井丸（おふけまる）】御深井丸は本丸の北西に位置し、本丸とは不明（あかず）御門とつながっていた。

【隅櫓】天守閣のミニチュア版である隅櫓は、攻めて来る敵を監視したり、防戦したりする重要な建物。隅櫓は2層3階建て。現存しているのは、東南の辰巳（たつみ）隅櫓、西南の未申（ひつじさる）隅櫓、西北の清須櫓である。北東の丑寅隅櫓（うしとら）は戦災で失われ台のみ残っている。各櫓を結ぶ多聞櫓（たもんやぐら）には、具足多聞、槍多聞、旗多聞、荒和布（あらめ=昆布）多聞、繻（ほしい）多聞があった。だが濃尾地震で破損し、取り壊された。

【門】「正門」とは、離宮時代（明治２６年～昭和５年）の呼び方で、江戸時代は「榎多（えのきだ）」門」といった。現正門（榎多門）は江戸城の「蓮池門」を移築したもの。表二之門（本丸南二之門　重文）は、本丸入口にある門で、大手枡形の外門にあたり、高麗門という構造になっている。現在本丸東二之門跡にある門は、元は二之丸の東二之門（東鉄門くろがねもん）だったが、現在地に移築された。

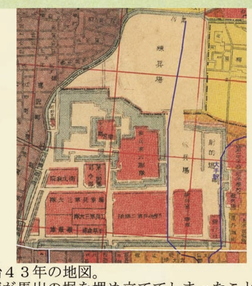
【御深井御庭】蓮池の中に、弁天島がある庭園だった。家光はこの庭園を気に入り、それを参考にして江戸城北郭（かく）の吹上御庭を造った。

【金シャチ横丁】名古屋市は、「金シャチ横丁」構想を推進している。この場所は、西の方から藩主の霊廟、家康を祀った東照宮、名古屋城築城前からこの地に祀られている亀尾天王社が建ち並ぶ尾張徳川家にとっての聖域だった。

【虎口と馬出】本丸は、3つの虎口（こぐち＝狭い入口）があり、容易に入れないようになっていた。本丸の南には大手枡形（ますがた）門、東には搦手（からめて）枡形門があった。枡形門とは、桝のような四角形で、外から門を破って攻め入っても直進できず、まさに桝の中に閉じ込められて、四方八方から撃たれた。馬出（うまだし）とは、虎口の外側に曲輪（くるわ）を築いて防御力を高めたもの。大手枡形門には大手馬出、搦手枡形門には搦手馬出があった。

第七代藩主　徳川宗春
（享保尾事　徳川林政史研究所所蔵）

名古屋城の俯瞰図（元禄１０年。１６９７年。赤穂浪士討ち入りの５年前）
「金城温古録」及び「名古屋城を記録せよ！」（市博物館）を元に川地正数氏が制作。


明治４３年の地図。
陸軍が馬出の堀を埋め立ててしまったことがわかる。
二之丸御殿も跡形もない。

〔失われた文化財の数々〕

【空襲で焼失したもの】大天守、小天守、東北隅櫓、正門、本丸表一之門、本丸東一之門、本丸東二之門、不明門（あかずのもん）

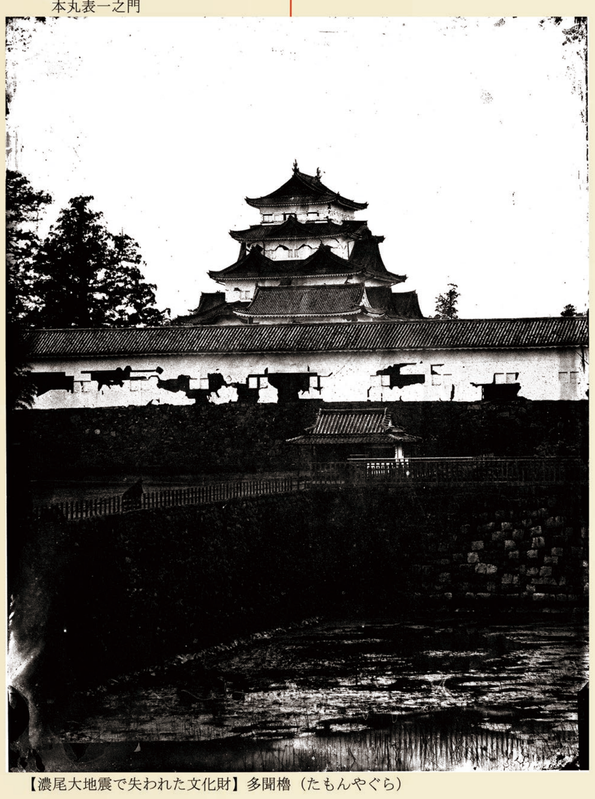
【陸軍省が取り壊したもの】二之丸御殿、御深井御庭、大手馬出の堀

不明門（あかずのもん）　本丸東一之門　本丸東二之門

丑寅隅櫓（うしとら）　東北隅櫓
鬼門（きもん）とは、北東（艮＝うしとら：丑と寅の間）の方位のことである。陰陽道では、鬼が出入りする方角であるとして、万事に忌むべき方角としている。「東北隅櫓が無くなったために天守閣の守りが弱くなり、それが名古屋の運勢に響いた」という説がある。

正門

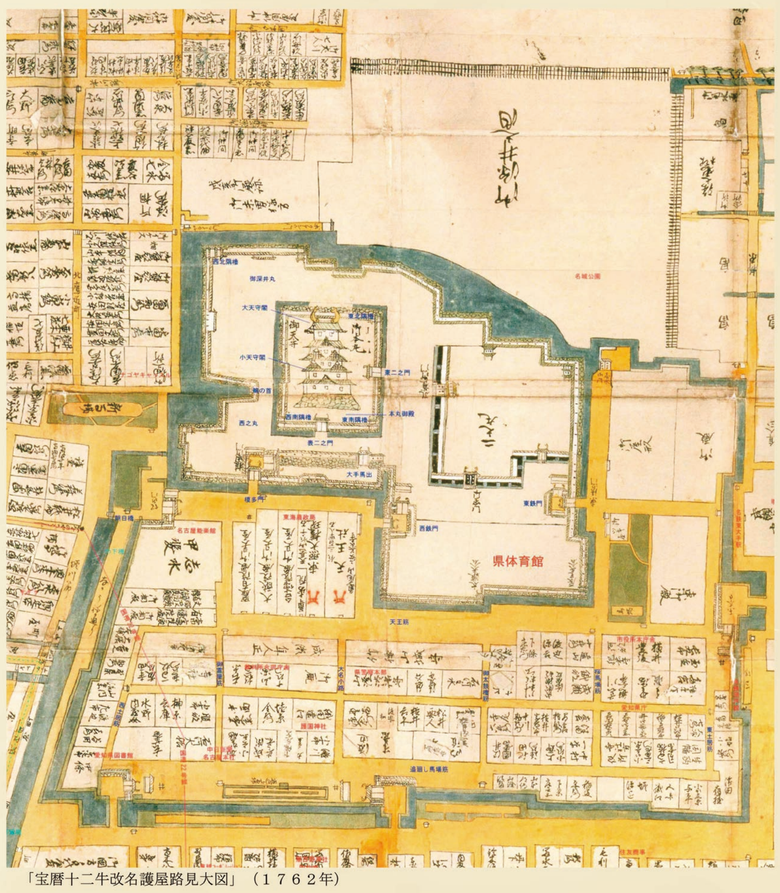
本丸表一之門


【濃尾大地震で失われた文化財】多聞櫓（たもんやぐら）

幕末に本丸の南側から天守閣を撮った。手前の堀は、現在は埋められている。天守閣の前に小天守の屋根が見える。その手前に映る多聞櫓は、武具を収納する具足櫓である。
（藩主・徳川慶勝（よしかつ）が撮影。徳川林政史研究所所蔵）

幕末の二之丸御殿桜之間。二之丸庭園の築山から南に向けて二之丸御殿を撮った。殿様しか撮れない貴重な写真。
（徳川慶勝が撮影。徳川林政史研究所所蔵）

幕末の二之丸の向屋敷。馬場や弓場が設けられていた。現在の県体育館近辺。
（徳川慶勝が撮影。徳川林政史研究所所蔵）



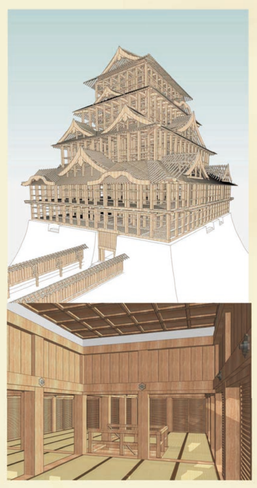
「宝暦十二牛改名護屋路見大図」（１７６２年）

【幕末の名古屋。血生臭い青松葉事件が起こった】
慶応４年（１８６８年）、“青松葉（あおまつば）事件”が起きた。尾張藩内では、勤皇派（成瀬。現名城病院）と佐幕派（竹腰。現県警本部）の２大家老が対立。慶勝はクーデター容疑で佐幕派の藩士を二の丸御殿の向屋敷の前庭（現愛知県体育館）で斬首した。だが、これは後に冤罪だと判明した。

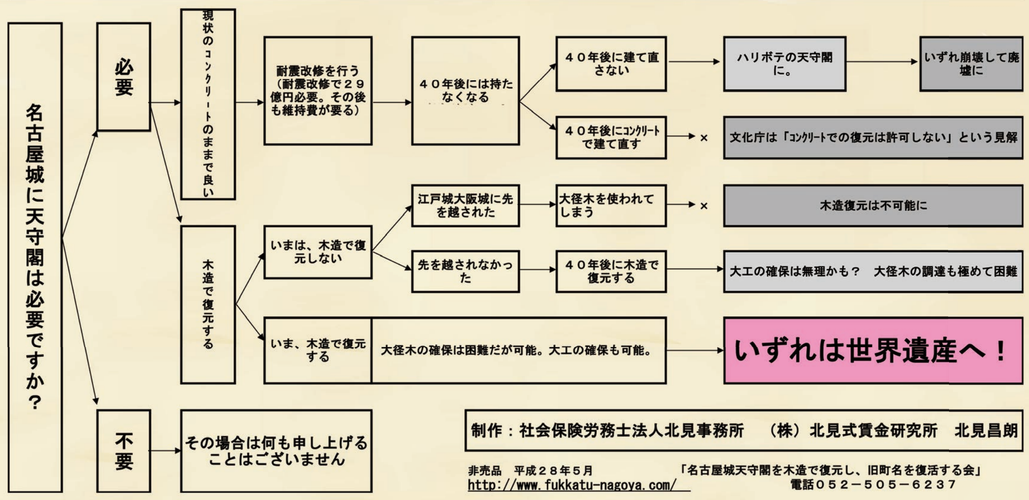
高須四兄弟

八男　七男　五男　次男
松平定敬・松平容保・徳川茂徳・徳川慶勝
（桑名藩主）（会津藩主）（十五代藩主）（十四代藩主）

【数奇な運命の「高須４兄弟」】
徳川慶勝（よしかつ）は、十四代藩主になったが、安政の大獄で隠居謹慎へ。茂徳（もちなが）は十五代目藩主になり、井伊大老に追随したが、井伊が暗殺され、自分も失脚。容保（かたもり）は、会津藩松平家に養子に入り、官軍と戊辰戦争で戦う。定敬（さだあき）は桑名の松平藩主になり官軍と戦う。
写真は明治１１年。（徳川林政史研究所所蔵）


昭和実測図を元に
復元予想図（川地正数氏制作）

現状の「コンクリートの城」が案外コスト高で、将来廃墟になる



制作：社会保険労務士法人北見事務所　（株）北見式賃金研究所　北見昌朗

非売品　平成２８年５月　「名古屋城天守閣を木造で復元し、旧町名を復活する会」
http://www.fukkatu-nagoya.com/　電話０５２－５０５－６２３７